

# 「社会福祉基礎」外部講師の授業を行いました

## テーマ「特別支援教育について」

～揖斐特別支援学校 栗原正美先生の特別講義～

7月5日（火）6限に、3年生選択科目『社会福祉基礎』の授業で、揖斐特別支援学校の栗原正美先生による特別講義を行いました。内容は『特別支援教育について』です。3年2組の科目選択者16名が出席しました。その様子を紹介します。

### 講義



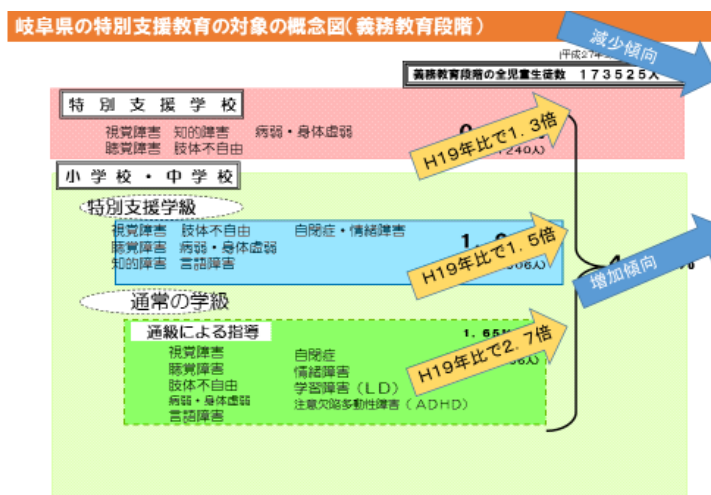
授業は、栗原先生が、特別支援教育について説明したパワーポイントと岐阜県教育委員会が作成した特別支援教育についてのパンフレットを使って講義をしてくださいました。

栗原先生は授業の導入で、マス目に仕切られた正八面体の図形を示され、生徒一人一人にこの図を描いてみるよう促されました。マス目から描き始める生徒、図形の輪郭から描き始める生徒、マス目の一つ一つから描き始める生徒、と描き方はそれぞれ違っていました。一人一人がいろいろな描き方をすることをお互いに確かめ合った後で、栗原先生は、人が物事を認識する認知の仕方は一人一人違うことを話され、認知の仕方において特別な支援をしていくことが特別支援教育の大切な内容であることを話されました。

認知の体験をした後で、特別支援学校や特別支援学級、通級により指導を受けている児童生徒の人数と割合について全国の状況と岐阜県内の状況についての説明がありました。そして、岐阜県の特別支援教育においては、少子化に伴い児童生徒の人数が全体的には減少傾向にあるのに対して、特に知的障害がある児童生徒数が増加傾向にあることを話されました。そして、平成18年度から始まった「子どもかがやきプラン」事業により、岐阜県内の特別支援学校が整備されていったことを説明されました。

次に、特別支援学校で行われている教育内容や施設設備について、揖斐特別支援学校を例にして解説していただきました。

また、小学校や中学校に設置されている「特別支援学級」や「通級による指導」について説明していただきました。



## 授業後の振り返り

### ➤ 生徒の感想

- ・私は今回、特別支援教育について話を初めて聞きました。その中で、特別支援教育は、障がいや発達につまずきのある児童生徒がもっている力を最大限に伸ばし、積極的に自立した社会参加ができるように支援していくことだということがわかりました。また、年々特別支援を必要とする人たちが増加しており、特別支援学校などの施設も各地に広がり増加していることも知りました。特別支援学校の授業では、児童生徒に合った授業が受けられ、将来のことも考えて、生活に必要な作業活動も学べることがわかりました。認知は、人それぞれ全く違って、ものの見方も一人一人違うので、いろいろなものの見方や考え方があるのだと思いました。
- ・今回の講義で、他人との認識の違いや、見え方、考え方の違いがどれほどあるのかがわかりました。そういった違いを尊重することがとても大切であると思いました。人には苦手なことや弱いところがあるということ、そのことを悪く言うことは間違っていると思いました。
- ・数字探しや一回見た図形を書いてみて、図形の書き方でその人のタイプがわかることがわかりました。体験をすることで楽しく学べました。
- ・先生のお話を聞いて、障がいがある子どもや、普通の生活を送ることができない子どもが、将来自立できるようにするために、特別支援学校も増えたのだと思いました。

### ➤ まとめ

生徒の感想にあるとおり、今回の授業を通して、特別支援教育について理解を深めることができました。「障害者差別解消法」が施行され、インクルーシブ教育（障がいのある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を、「通常の学級において」行う教育）の必要性が喫緊の課題となっています。今回の特別講義は、受講した生徒たちにとって特別支援教育について理解をする意義深い授業になりました。次回は、揖斐特別支援学校を訪問してさらに学習を深めます。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～